

近未来志向ユビキタスコンピューティング環境実現のための インターネットスケール実験システムを本格稼働

- 東大と慶大でユビキタスコンピューティング環境のインターネット相互接続実験 -

東京大学情報理工学系研究科 / 新領域創成科学研究科 青山・森川研究室（所在地・東京都文京区）と慶應義塾大学環境情報学部 徳田研究室（所在地・神奈川県藤沢市）は13日、それぞれに開発を進めてきている近未来志向ユビキタス環境実現のための実験システム「STONE Room」と「Smart Space Lab.」をインターネット上で相互接続し、本格稼働を開始したことを発表しました。

ユビキタスコンピューティング環境は、PCや携帯電話、カーナビなどに加えて、センサーやウェアラブル機器、ロボットなど、私たちの生活空間に存在する多様なものがネットワーク接続され、利用者の望み通りのサービスが、場所や時間を問わず、ネットワークを介して快適に享受できる環境として期待されています。両研究室はこれまでに、情報家電機器、センサー、各種マルチメディアコンテンツ、ソフトウェアコンポーネントなどを、インターネットを通じて接続し、それらをネットワーク上で自在に制御できるユビキタスコンピューティング環境の実験システム「STONE Room」および「Smart Space Lab.」をそれぞれ独自に開発してきました。

今回、両研究室は、それぞれの実験システムの本格稼働を開始すると共に、インターネットを介した実験システムの相互接続を完了しました。これまで開発された多くのユビキタスコンピューティングの実験システムは大学の研究室内やモデルハウスなどの局所的な環境で構築されてきましたが、今回、インターネットを介した実験システムを実際に構築し、遠隔のシステムをインターネット上で有機的に動作させた実験は類を見ないものであり、画期的であります。両研究室では既に、近未来志向ユビキタスコンピューティング環境のための基礎的なアプリケーションの開発と実験を終了しており、各実験システム間でのユビキタス機器の相互運用を確認しています。これにより、将来のインターネットを視野に入れつつ、私たちの生活に密着した利便性の非常に高いインターネットアプリケーションを研究開発する環境が整ったこととなります。

13日のデモンストレーションでは、近未来志向ユビキタス環境の基本的なコンセプトとそのねらい、実験システムの構成についてご紹介するとともに、Connect Toサービス、インスタントディスクサービス、Crossing Windowサービス、Wapplet/i-faceシステムなど、実際に実験システムを利用したアプリケーションを動作させることで、将来のアプリケーションの可能性を示します。

両研究室では、今後、グローバルなスケールでの近未来志向ユビキタスコンピューティング環境の実現と、そのための革新的なアプリケーションを目指して、よりシームレスな環境融合、よりユーザにやさしいサービス統合、より幅広い環境情報に基づくサービス提供等を実現していく予定です。これにより、家庭やオフィスのみならず、鉄道駅や大規模店舗を始めとした公共空間、さらには町全体といった多様な場面に、ユビキタスコンピューティング環境が浸透していくことが期待されます。

以上

<お問い合わせ先 参考資料URL >

東京大学 新領域創成科学研究科 青山 森川研究室

<http://www.ml原因.t.u-tokyo.ac.jp/>

慶應義塾義塾大学 環境情報学部 徳田研究室

<http://www.ht.sfc.keio.ac.jp/SSLab>

南 TEL 03-5841-6710

E-mail minami@mlab.t.u-tokyo.ac.jp

中澤 TEL 0466-47-0836

E-mail jjin@ht.sfc.keio.ac.jp



